

大阪消防

特集 令和7年度 国際消防救助隊員研修
新旧局長挨拶
春の火災予防運動オープニングイベント

令和8年

5

No.914

月号

CONTENTS

大阪消防 5

表紙：IRT27時間訓練

01：コンテンツ／災害概況	22：人材育成のヒント
02：新旧局長挨拶	23：落語DE火の用心
04：令和7年度 国際消防救助隊員研修	24：実録!! 調査鑑識
06：ケイボウタイムズ	26：救急いろは
08：【職務】春の火災予防運動オープニングイベント	28：明日に備えて過去に学ぶ
11：健康ダイアリー	29：自衛消防隊紹介／女性防火クラブだより
12：コマンドアイ	30：【職務】誘導灯の設置基準について
14：第73回消防職員意見発表会	32：現場に活かす！救急救命士国家試験問題
16：Just Do It！	33：功績表彰
18：We are Rookies！	39：消防漢字ガール
20：大阪の消防NEWS	40：救急安心センターおおさかだより／編集後記

令和8年 大阪市の災害概況

◎火災概況

	建物火災				小計	車両	船舶	爆発	その他	合計
	全焼	半焼	部分焼	ぼや						
3月中件数	0	2	10	29	41	0	0	0	9	50
令和8年 3月末累計 (1～3月)	4	7	31	115	157	10	0	1	22	190
令和7年 3月末累計 (1～3月)	8	6	54	110	178	6	0	0	25	209
累計比較	▲4	1	▲23	5	▲21	4	0	1	▲3	▲19

◎救急概況

	救急出場
3月中件数 (概数)	20,774
令和8年 3月末累計 (1～3月)	62,470
令和7年 3月末累計 (1～3月)	67,073
累計比較	▲4,603

◎火災・救急以外の消防活動概況

	救助活動	危害排除	水防活動	その他
令和8年 3月末累計 (1～3月)	1,141	379	0	311
令和7年 3月末累計 (1～3月)	1,156	337	0	324
累計比較	▲15	42	0	▲13

新旧局長挨拶



第25代 大阪市消防局長

橋口 博之

3月31日付けで、市長から退職辞令をいただきました。昭和59年に消防士を拝命して以来、42年間にわたり消防職務に従事し、本日をもってその任務を終えることができました。

これもひとえに、消防の使命を共にする諸先輩や同僚の皆様からの温かいご指導や助言があったからこそ、感謝しております。

消防局長就任からの3年間を振り返りますと、緊急消防援助隊大阪府大隊の派遣が2度ありました。令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、厳冬の過酷な活動環境に加え、余震が続く危険と隣り合わせの中、救助を待つ方を一人でも多く助けようと、懸命な救助活動を展開。令和6年9月には石川県輪島市などで大雨特別警報が発表され、甚大な被害が発生しました。この災害においても危険かつ過酷な状況のなか、誰一人として諦めることなく、被災地に寄り添った活動を行い、高い評価を受けたところでもあります。職員の皆様の対応に心からの敬意と感謝を申し上げます。



第26代 大阪市消防局長

山本 博文

大阪市消防局長を拝命いたしました山本です。この度、大阪市消防局の発展に多大な功績を残された橋口局長の後任として、第26代消防局長を拝命いたしました。身に余る光栄であると同時に、伝統ある組織を担う重責に身の引き締まる思いです。大阪市消防局の輝かしい歴史に恥じぬよう、誠心誠意、職責を果たしてまいりますので、よろしく願います。

昨年、中央区で発生したビル火災において、職員2名の尊い命が失われました。同じ悲しみを繰り返さないことこそ、私たちに課された責務であると受け止めています。現場は常に不確実であり、危険を完全にゼロにすることはできません。だからこそ、想定外の事態が起こり得ることを前提に、柔軟に対応する力を高めるとともに、定められたルールを確実に守り、「当たり前のことを当たり前に」実行することが重要です。日々の訓練を含む一つひとつの積み重ねが、自分を守り、仲間を守り、市民を守ることにつながります。大阪市消防局は、いかなる場合も安全を最優先とする組織へと転換するため、安全管理体制を抜本的に強化してまいります。

また、最終年度の令和7年には、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げ、2025年大阪・関西万博が開催されました。4月13日から10月13日までの184日間にわたり、来場される皆様、関係者の方々の安全・安心の確保という重大な使命に、全身全霊をもって取り組み、大きな事故なく終えることができました。これもひとえに、職員の皆様がこれまで培ってこられた経験と知識、技術を最大限に発揮し、一丸となって対応していただいた賜物であり、改めてお礼申し上げます。

この大阪・関西万博で得た経験は、大阪の防災力、危機対応力を向上させる貴重な財産、レガシーとなったと確信しており、この経験を活かし、これからも「安全・安心な都市、大阪」の実現に向け、一層、尽力していただきたいと思っております。

私は就任以来、誰一人の負傷者も出さないという信念のもと、重点目標の一番目に「安全文化の醸成と安全管理の徹底」を掲げて取り組んできましたが、令和7年8月18日、2名が殉職する事故が発生しました。組織として、消防局長として痛恨の極みであります。優秀な職員を失うことは、組織として大きな損失、打撃を受けることはもちろん、何よりも最愛の家族から一番大切なものを奪い取ってしまうという事態を招いたことに、自責の念に堪えません。徹底した事故調査の結果により、今後、同様の事故を発生させないため、組織一丸となって再発防止に取り組んでいくことはもちろん、効果、検証を行いながら実効性のある対策を講じて下さい。

今後は、IRの開業など、大阪市は益々の発展が見込まれております。これまで、大阪市消防局は安全なまちづくりを目指して、地道な取組を積み重ねることにより、市民の期待に応えてまいりました。

今後も引き続き、局是である「明・強・敏」の精神を継承し、山本新局長のもと、これまで以上に市民の信頼と期待に応えていきたいと願っています。

一方で、災害発生時の対応だけでなく、災害を未然に防ぎ、被害を最小限に抑えるための備えを平時から積み重ねることも欠かせません。近年、全国各地で記録的な大雨や台風による風水害が相次ぎ、大規模な自然災害のリスクが高まっています。南海トラフ地震で想定される被害は甚大であり、発災時には消防がどれほど力を尽くしても限界があることは否めません。大規模災害への対応力を強化することはもちろんですが、何より地域の力を育てることが肝要です。自助・共助の重要性を、これまで以上に消防局として発信するとともに、地域の皆さまと一体となって、効果的な防火・防災事業の推進に努めてまいります。

さて、昨年は、此花区夢洲において大阪・関西万博が開催され、世界各国から多くの方々が来訪されました。救急需要の増大への備えや、有事への対応など多くの課題がある中、橋口局長の指揮のもと、万博消防センターをはじめ組織一丸となって警戒体制を確立し、大きな災害なく半年間の対応を無事に終えたことは、当局にとって大きな財産となりました。

とりわけ「万博モード宣言」を掲げ、柔軟な救急運用体制や人員配置、研修体制など、試行的にさまざまな取組に挑戦できたことは、万博レガシーとして今後の施策につなげていかなければなりません。近年、消防行政へのニーズが多様化・増大化し、生産年齢人口の減少により人材確保は一層難しくなっている中で、先人から受け継いだ当局の伝統を継承し、10年後、20年後、そして100年先を見据えて組織を持続させていくためには、新たな視点に立った業務の見直しを加速させる必要があります。職員の皆さんには、目の前の仕事で非効率なところは無いか、もし効率化できそうな部分があれば、まず変えてみるという姿勢を大切にしていっていただきたいと思っています。業務を可視化し、改善を積み重ねること、時間と人材、財源など新たな資源が生まれます。その資源を活用し、将来のニーズ変化に柔軟に対応するとともに、働き方改革にもつなげてまいりたいと考えていますので、よろしく願います。

最後になりますが、今日まで支えていただきました職員の皆様には深く感謝し、改めてお礼を申し上げますとともに、大阪市消防局の更なる発展を心からお祈りいたしまして、退任の挨拶とさせていただきます。

- S59.04 消防学校入校
- S59.10 南消防署
- H01.10 西淀川消防署（鶴見消防署兼務※）
- H06.10 阿倍野消防署
- H09.04 警防部司令課
- H12.04 総務部人事厚生課
- H16.04 中央消防署担当司令
- H16.12 国際緊急援助隊（タイ）へ派遣
- H18.04 警防部警防課担当係長（救助）
- H20.04 警防部担当係長（機動指揮）
- H21.04 総務部担当係長（人事厚生担当）
- H23.04 警防部指令課副参事兼担当係長
- H24.04 北消防署副署長（警防）
- H25.04 警防部警防課計画担当課長代理
- H26.04 大阪市危機管理室危機管理課
- H27.04 住民保護企画担当課長代理
- H27.04 大阪市危機管理室
- H28.04 住民保護企画担当課長
- H28.04 警防部計画情報担当課長
- H29.04 警防部警防課長
- H30.04 西成消防署長
- R02.04 西消防署長
- R04.04 企画部長
- R05.04 消防局長

※「国際花と緑の博覧会」開催に伴う。



最後に、大阪市消防局の職員として能力を最大限発揮するためには、心身の健康が何より大切です。また、互いを尊重し合える組織であることも不可欠です。市民の信頼と期待に応えるべく、職員全員が一致団結し、一丸となって前進できることを決意いたしまして、就任の挨拶といたします。

略歴

- H05.04 消防学校入校
- H05.10 東成消防署
- H08.10 淀川消防署
- H09.10 総務部総務課
- H11.10 中央消防署
- H12.10 浪速消防署
- H15.05 総務部人事厚生課
- H20.04 大正消防署救急担当司令
- H21.10 警防部救急課担当係長（救急高度化）
- H25.04 西成消防署管理担当司令
- H27.04 此花消防署警防担当副署長
- H28.04 救急部救急課施設担当副課長
- H29.04 総務部総務課副課長
- H30.04 大阪市危機管理室
- R02.04 住民保護企画担当課長
- R03.04 警防部警防課長
- R04.04 企画部企画課長
- R04.04 西消防署長
- R05.04 予防部長
- R06.04 企画部長

— 重機隊の活動 —

このような大規模かつ長時間に及ぶ訓練を実施できたのは、訓練当日の隊員の奮闘だけではなく、事前に可能な限り実際の現場に近い「訓練の舞台」を作り上げた力があつたからです。その中心を担った阿倍野消防署の重機隊は1月8日から2月4日までの約1カ月間、終日にわたり施設設営に従事し、本訓練の企画内容に沿った環境整備や安全確保等、訓練の基盤を整えてくれました。【**サイトA**：倒壊建物を模したサイト／**サイトB**：地下駐車場を模したサイト】



— 訓練を終えて —



京地司令補
国際消防救助隊員
(阿倍野特別救助隊)

ＩＲＴ隊員として約6年。私自身5回目となる27時間訓練への参加となります。訓練当日の朝は、未知のワークサイトへの不安もありましたが、その不安に、どんな状況でも諦めず全ての要救助者を救い出すという覚悟が入り混じっていました。ただ、救助活動が下命された後は、一気にスイッチが入った感覚でした。ほぼ休憩もなく夜を徹して活動しましたが、誰一人弱音を吐かず、要救助者救出のため懸命に動き続けました。

しかし、いずれのサイトでも「あと一步」で活動終了となり、目の前の要救助者を助けきれなかった悔しさに言葉を失い、茫然としました。

私は令和7年度末でＩＲＴ隊員の任期を終えます。採用当時、ＩＲＴ隊員は雲の上の存在でしたが、初めて選ばれた時の喜びは今も鮮明です。日本の救助隊員の代表であるという自覚で臨み、全国の志を同じくする仲間と切磋琢磨できたことを誇りに思います。寂しさはありますが、後輩たちが志を継ぎ、救助隊を牽引してくれると信じています。最後に、本訓練を企画・準備・支援して下さった警防課救助担当をはじめ関係職員の皆様に深く感謝申し上げます。



森下司令補
国際消防救助隊
指導員
(警防課救助担当)

私自身、過去にＩＲＴ隊員として、また訓練の起案者として携わった経験はありますが、指導員として臨むのは今回が初めてとなります。あらためて責務の重さを受け止め、訓練の一つひとつに明確な意図と成果目標を置いて準備・運営にあたりました。参加者が精鋭であるからこそ、安易な訓練想定では期待する成果を得られないおそれがあります。難度や状況設定、評価の観点が曖昧であれば、隊員の力を十分に引き出せないだけでなく、課題の抽出や改善にもつながりません。

今回の想定は大規模地震災害であり、市内で日常的に対応する災害現場とは活動内容が異なる部分もあります。しかし、限られた情報の中で状況を整理し、優先順位を付け、適切に意思決定する力、現場の安全管理や部隊運用の考え方など、普段の現場活動にも直結する要素が数多く含まれています。

ＩＲＴ隊員には、地震災害に限らず、日常の災害現場においても中心となる役割を担ってほしい——その思いがあります。

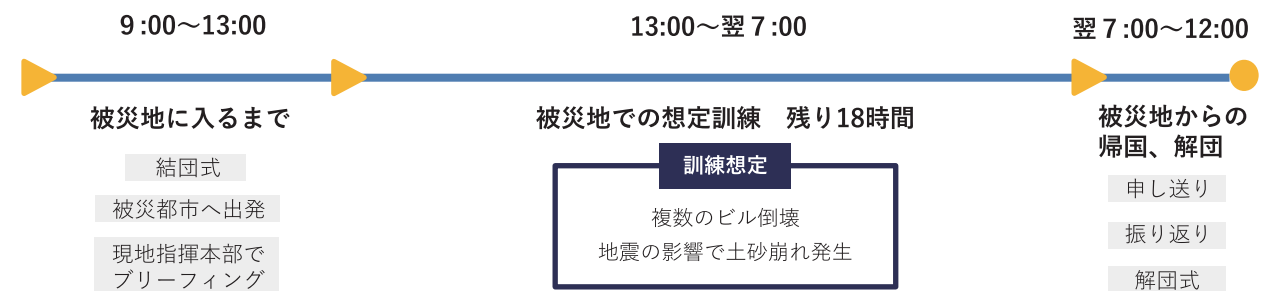
日本の救助チームは国際的にも最高水準として「ヘビー」評価の認定を受け、世界の現場で信頼に足る活動が期待されています。技術の習得だけでなく、規律ある行動、的確な連携、そして安全を最優先にした活動を徹底していくことが、国際任務における信頼の基盤になると考えます。

令和7年度 国際消防救助隊員研修

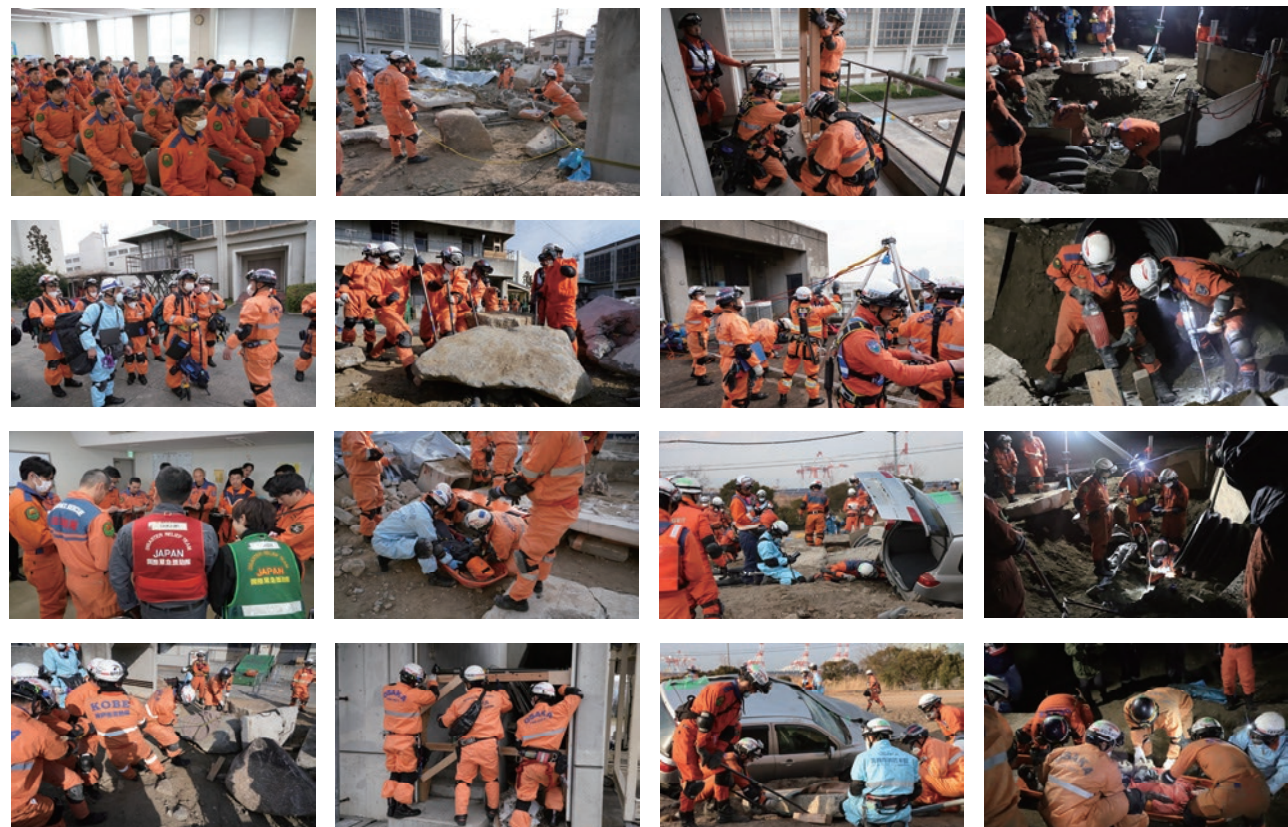
2026.2.5～2.6

今回は、「27時間訓練」の様子に加えて、訓練の準備として、施設設営などで27時間訓練を支えた阿倍野消防署 重機隊の活動についてもお伝えし、訓練の裏側を紹介します。

— 訓練の流れ —



— 訓練の様子 —



ケイボウタイムズ

～警防課の「いま」を伝える～

第25回 水難救助隊員養成の取組み

― 新規隊員養成訓練B―

警防課〈救助〉

災害現場での活動を支える「警防部 警防課」。
「ケイボウタイムズ」では、毎号、警防課の各担当によ
る「この時期だから伝えたい」旬なネタを掲載するほか、
警防課が取り組む施策や事業についてお伝えします。

故件数が増加する可能性も懸念されます。

その一方で、潜水隊員の育成には「適性確認」
「基本技術訓練」「河川訓練」と段階を踏む必要
があり、災害対応ができるようになるまで約1年
を要します。潜水士を持続的に養成するためには、
早期に適性を見極めるとともに、若手職員を安定
的に育成することが欠かせません。

このような状況を受けて令和3年度からスター
トしたのが、水難救助隊配置署以外の職員を対象
とする「新規隊員育成訓練B」です。この訓練は、
DR配置署に委ねられている潜水士の確保・養成
を補完するとともに、人材確保の一環としてDR
配置署以外の署の潜水業務への関心を高めること
を目的としています。

当局における水難救助隊養成の 主な取組み

当局における水難救助隊養成の訓練は、すでに
水難救助を担っている隊員（DR隊員）を対象と
するものと、初めて訓練を受ける隊員向けのもの
とがあります。

■水難救助隊員（DR隊員）

都島消防署及び水上消防署に配属された水難救

助隊員を対象に、民間プール等を使用した基本訓
練、ならびに海域・河川を使用した応用訓練を、
年間を通して実施しています。

■水難救助隊 新規隊員訓練

新規隊員育成訓練A

水難救助隊配置署（都島および水上消防署）
の職員が隊員間で行う訓練です。

新規隊員育成訓練B

水難救助隊配置署以外の職員が対象で、水難救
助隊が訓練指導を行います。

新規隊員育成訓練Bについて

令和3年度に開始した本訓練は、令和7年度で
5回目の実施となりました。例年10名程度の参加
希望があり、参加者を2班に分け、同一カリキュ
ラムを2日間実施しています（令和7年度の参加
者は13名）。

■実施概要

本訓練の習得目標と主な訓練内容を表にまとめ
ます。なお、訓練当日の流れは以下のとおりです。
午前…潜水基礎知識に関する座学（講師…現役D
R隊員）。各資器材の点検及び取扱説明。

午後…実技訓練

●3点セット習熟訓練

●潜水救助基本訓練（スノーケルクリア、マスク
クリア、水面泳法、水面休息、素潜り、エント
リー、潜降浮上訓練、中性浮力、水中での装備
脱着等）

●潜水救助検索訓練（DR隊の見学を含む）

おわりに

本研修には特殊なものがいくつか含まれており、
うまくできない隊員が出てくることもあります。
たとえば「耳抜き」の得意・不得意には個人差が
あり、体調やコンディションにも左右されますが、
必要以上に心配することなく、積極的に訓練に参
加していただきたいと思います。

現役DR隊員の知見のもと、資器材の取扱いから
潜降・検索の要領までを体系的に学べる本訓練
には、普段の勤務では得難い貴重なカリキュラム
が盛り込まれています。

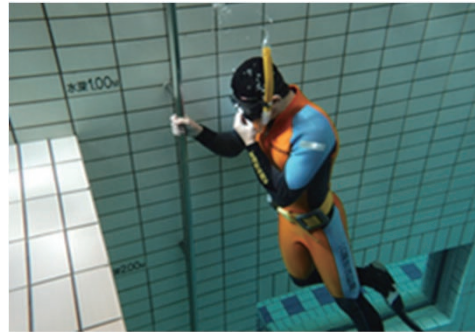
本研修によって水難救助の「知識」「基本技
術」「安全意識」を獲得した職員が増えることは、
市内で発生する水難救助活動を支える確かな力に
なります。経験の有無は問いません。潜水活動に
少しでも興味がある職員に、一人でも多く受講し
ていただけることを願っています。

表 習得目標と主な訓練内容

習得目標	内容
潜水救助装備の着装、離脱要領	潜水装備説明／潜水装備着装・離脱訓練
潜水救助に必要な基本技術の反復	潜水可能深度確認／潜水器具の取扱い要領／潜降要領／マスククリア・耳抜き習熟
潜水救助活動要領	さがり綱での潜降訓練／検索訓練見学（環状検索、ジャックスティ検索）



マスククリア



耳抜きをしながらの潜水可能深度確認



訓練参加者の集合写真



検索訓練風景



中性浮力の確認